

クリエイティブひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイティブひがしね

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地 和博



子どもと遊び

けやきホール 担当理事 青山博文

けやきホールで子どもの遊びを見守るサポーターとなって1年が過ぎました。名前シールを貼るとすぐに遊びに向かう子どもたちの姿から、子どもの成長を支える遊びの役割について日々考えさせられています。けやきホールには、子どもの年齢や体力に応じた様々な遊具やおもちゃが備えられています。

その中でも子どもに大人気なのが通称段ボールバス。ダンボールの箱にひもを通して、子どもが中に乗って、お家の方に引っ張ってもらえるようになっているものです。

段ボールバスを使った子どもの遊びを見ているとその発想や行動に驚くことがあります。ある子にとっては段ボールの箱は電車であり、またある子にとっては物語に出てくる馬車であったりするのです。乗せてもらうだけでなく、自分で引っ張ったり押したりして遊んでいる子もいます。

ある時、子どもの乗っている箱が、床のクッショ

ンに乗り上げてひっくり返ってしまいました。するとその子は「大きな波だったねー。」と大声をあげてにこにこ顔でお家の人と話をしていました。大人からすればただの箱ですが、その子にとってその箱は大海原を渡る船であり、冒険への想像をかき立てる素敵な遊び道具になっていたのです。

人間と他の動物との違いの一つに「想像する力」があると言われています。それは、今、目の前にないものを思い浮かべたり、考えたりすることができる力であり、人が社会の中で生きていく上でなくてはならない大切なものです。子どもは、遊びを通して生きていく上で必要ないろいろな力を身につけていきますが、「想像する力」もその一つです。

けやきホールは、子どもにとって遊びを通して、かけがえのない体験ができる大切な場となっています。さあ、今日はどんな遊びに子ども達は夢中になっているのでしょうか。

オレンジリボンフェスタを開催して

みんなで楽しみました!

オレンジリボン運動の目的は、「子ども虐待のない社会」をつくることです。その実現に向けては様々な方策が考えられるでしょうが、私たちは「子どもや子育てにやさしい社会づくり」からアプローチしています。

親が子どもを虐待してしまう原因を探ってみると、「思い通りにならない育児」や「家族関係の悩み」を原因とする“ストレス”がよく挙げられます。でも、それは本当の原因とは言えないでしょう。いくら悩みがあったとしても、育児を手助けしてくれる人や、温かい眼差しで見守ってくれる人が周囲にいれば、ストレスはそうは溜まらないはずです。根本にある原因は「社会的孤立」と言えます。従って、子どもや子育てにやさしい社会をつくることこそが、社会的孤立を防げると考えているのです。

この運動の認知度はまだ高くありません。だから、東北初開催となる「フェスタ」をこの東根市で開催したことに意味があると思っています。フェスタは、オレンジリボン運動を広める起爆剤として開催するわけですが、虐待防止を全面に出すことはありません。フェスタを通して「楽しい時間を過ごし、親子で笑顔になってほしい」「子どもや子育てを温かく見守っている個人や団体が多く存在していることを子育て中の親御さんに知ってほしい」「子どもに関わる関係者や専門機関とのネットワークをつくる」という目的があります。

その「オレンジリボンフェスタ」が、10月22日にあそびあランドを会場に開催されました。肌寒い天候でしたが、外でやれただけで大満足。駐車場は常に満車。約2400名の来園者がありました。出展ブースは28を数え、「みんなのステージ」でのステージ発表は10に上りました。また、31名のボランティアが運営を支えてくれました。

会場内に笑顔が溢れ、あちらこちらで交流が生まれていました。また、フェスタを開催したからこそつながれた団体や個人は、クリエイティブがしねにとって大きな財産になることでしょう。

成果多きフェスタと言えますが、まだスタートを切ったに過ぎません。子どもや子育てにやさしい社会をつくるために、今回の成果を次回にどうつなげていくか、今後も模索を続けていきたいと思っています。(三浦通夫)



スタンプラリー



パパママブース・レザークラフト



レモネードスタンドプロジェクト



ベーゴマ大会龍少戦



フラダンスサークルハレアカレ



言霊戦士ヤンバイダー

出張けやきホール

けやきホールが改修工事で休館の間、子どもたちの遊び場として公民館や体育館など東根市内の地域に出向き「出張けやきホール」を行いました。

開催場所は、遊具が充実したけやきホールとは違い限られた条件の中で遊ぶため、子どもたちの「やってみよう」気持ちを大切にしたい場づくりをし、そこに子どもたちの遊びのアイデアがプラスされて自分たちで作る遊びの空間となりました。

子どもたちが自ら考えて遊び方を工夫し、発想力豊かに遊ぶ姿も見られました。保護者の方からは、「初めての場所に足を運ぶきっかけになり新しい発見がありました」「ママ同士ゆっくり話せて楽しいです」「場所も広く思いっきり体を動かせます」という声が聞かれました。スタッフと来館者で話す場面も増え、良い関係を築く機会になりました。

今後は、各地域の特色を生かした企画をとりいれて、その場所だからこそ味わえる体験もできたいなと思います。(和泉本子)



冬も元気あそびあランド



冬が近づくと、毎年のように聞かれる言葉があります。それは、「あそびあランドって冬も開園していますか?」です。

東根市は転勤で県外から移住してきた方も多く、雪を初めて見る親子も少なくありません。そんな中、雪の上を裸足で駆け回る子どもたち、手を真っ赤にして雪で遊ぶ子どもたち、吹雪の中ニコニコして遊ぶ子どもたち。そんな姿を見て驚く方もいますが、これは全部子どもたちの「やってみよう」という気持ちの現れです。そんな「やってみよう」とキラキラ輝いている子どもたち、それを止めることなく、あたたかい眼差しで笑って見守る大人たち。ここでしか見られない冬の光景です。

また、あそびあランドの冬といえばたき火です。たき火を囲んでいる輪の中に流れる自由な時間を楽しむことも、冬のあそびあランドだからこそできる遊びの一つ。冬には冬の楽しさがあるあそびあランドを、より多くの親子に知ってもらい、遊育・共育につなげていきます。(軽部樺恋)



「だがしや学校」って？

楽楽クラブ 鈴木茂子

日頃子どもたちには耳慣れない「だがしや学校」は、「じいちゃん、ばあちゃん、一緒に遊ぶべ」でおなじみのむかし遊びを楽しむ会です。黄色いエプロンのおばちゃんたちが、小学生の頃に学校や家、地域で、異年齢の子どもたち同士と一緒に夢中で遊びました。屋内で、戸外で、自然の中でと、遊びの宝庫でした。時代と共に子どもをとりまく環境も変わりましたが、「あそびあランド」で一年を通して遊べる環境が素晴らしい！。むずかしくても何回も挑戦し、出来たときのあの笑顔、大人の拍手拍手に「またやりたい」「また来たい」の言葉、ばあちゃんたちの元気の源になっているのです。



生涯学習フェスティバルで手話ソングを披露

けやきジュニア合唱団 ♪♪ 大大大募集! ♪♪



練習風景

けやきジュニア合唱団は平成17年に発足し、今年で結成18年を迎えました。コロナウィルスが5類に移行後は様々なイベント出演の機会をいただき、改めて歌う喜びを噛み締めています。練習日は月3回ほど、午後4時から5時30分まで。主にタントクルセンターを会場に団員、先生方と共に楽しく練習しています。現在団員は小中学生合わせて5名で、新しい仲間を随時募集しています♪歌う事が大好きなあなた！私たちと一緒に歌ってみませんか？

練習日：土曜日（月3回）

時間：16時～17時30分

練習会場：東根公民館、タントクルセンターなど

会費：月2,000円（兄弟割引一人1,500円）

制服：貸与

連絡先：クリエイトひがしね事務局

さくらんぼタントクルセンター内

TEL0237-43-0732（村山・結城）

故 高橋京子さんを悼む

平成23年より当法人の理事として、法人の運営をはじめ、職員の健康、メンタルヘルスや衛生管理にご尽力いただいた高橋京子さんが去る8月7日逝去されました。

メンタルヘルス面談では、緊張する職員に対して生年月日による方位や動物占いの話で場を和ませながら、親身に話を聞いてくださいました。

新型コロナ感染症が流行し、思うように活動ができないときも、感染症について資料をまとめ、タントクルセンター、あそびあランドの利用者、職員のために感染症予防委員会を立ち上げ感染予防対策に努めていただきました。

突然の訃報に接し、様々のことに好奇心旺盛でにこやかな笑顔が思い出され、ただただ残念でなりません。高橋元理事のご遺志を引き継ぎ、希望と輝きのまち「ひがしね」をクリエイトしていきます。合掌

編集後記

★今年最後となる小学校での絵本読み聞かせが3学年担当になった。感性豊かで感情を素直に表す読み聞かせが楽しい学年だ。この日とり上げた絵本は『キャベツくん』と『ゆうだち』。『キャベツくん』は50年以上も子どもたちに支持されてきた、想像を掻き立てるユニークな絵本。『ゆうだち』は雨宿りにオオカミの家に入ってしまったヤギが食べられないために必死に知恵を出し、最後にオオカミが逃げ出してしまうという話にやんやの反応。15分の短い時間ながら平和ならではの子どもたちとの楽しいひと時。一方で日々命を戦火に晒されている子どもたち。どちらも大人が創り出した世界であることを肝に銘じたい。（M）